

お詫びと訂正

先般、当演奏会にご来場いただいたお客様より、当日プログラムの記載についていくつかのご指摘を頂きました。執筆者に確認いたしました所、ご指摘の通り、不適切な表現がございましたので、以下に訂正とお詫びをさせていただきます。一方、音楽学的な見地から見て、事実誤認とまでは認められないと判断いたしました箇所については、今後、このようなご指摘を賜らないように、最善を尽くしたいと存じますので、何卒、ご理解をいただけますよう、お願い申し上げます。

2018年12月 国立音楽大学

1. ミサ曲 ト短調 作品187の副題の記載について (p.1)

曲目記載の際に、副題として「Sincere in memoriam (心からの哀悼)」がないのは制作の誤りです。

2. レクイエムの中の曲目表記について (p.7)

「オフェルトリウム Offertorium」に「ホスティアス Hostias」が含まれることを表記したつもりでしたが、特記したのは不適切でした。

3. リヒテンシュタインに対する言及について (p.6)

「現リヒテンシュタイン」という表記は、リヒテンシュタインが過去に、他国に吸収・合併・分裂・再独立などを経験した国であるという印象を与えてしまいますので、「現」は必要ありませんでした。

4. ラインベルガーがブラームスの訃報を知った日とそれに関連するミサ曲の副題への言及について (p.6)

解説文からは、ラインベルガーがブラームスの訃報を知ったのは「4月3日」となってしまいます。訃報を知ったのは5日と考えられますので、不適切な表現でした。またこの訃報をきっかけに「Sincere in memoriam 心からの哀悼」と副題をつけたことへの言及がなかったことも、配慮が足りませんでした。

5. ミサ曲第1曲〈キリエ〉の速度表示表記について (p.6)

「Andante molto」は「アンダンテ・モルト」が正しいです。校正でのチェックが不十分でした。

6. レクイエム第2曲について(p.7)

レクイエム第2曲として「セクエンツィア Sequentia」ではなく、一般的に音楽をつけない「トラクトゥス Tractus」が採用されているという特徴についての言及がなかったのは、解説として十分ではありませんでした。

以上、訂正をさせていただき、お詫び申し上げます。